

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

項目番号23 初期に築く本人との信頼関係

項目番号24 初期に築く家族との信頼関係

項目番号25 初期対応の見極めと支援

項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援

項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援

項目番号60 お金の所持や使うことの支援

項目番号61 日常的な外出支援

項目番号62 普段行けない場所への外出支援

項目番号63 電話や手紙の支援

項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 社会福祉法人 篤心会 エルピスホーム

(ユニット名) A

記入者(管理者)
氏名 吉川 君江

評価完了日 平成19年 9月 28日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設時より家庭・地域社会との連携を大切に暖かい家庭的環境を作ることを理念に掲げています。「地域密着型サービス」の意義を職員で確認し、現在のホームの状態から地域との関係性、連携をどのように図っていくべきか話し合い、少しずつ自然な形で地域に溶け込める様に努めています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日朝礼の際、職員全員で理念の実現のために唱和しています。理念を中にある「入居者の安全を守り人権を尊重する」ことに関しては、全職員がレポート提出という形で理念について考える機会を持ったり、管理者による勉強会を開催し理念の共有、取り組みに活かしています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の方には入居契約時・面会時・家族会開催時等の際に、地域の方には運営推進会議・見学の際に理念について説明しています。その他、理念を見え易い玄関に掲示したり、パンフレットに載せたりと多くの方に理念が浸透するように努めています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>夏祭り等の行事を開催する際は、近所の方に招待状を出し、参加の呼びかけをしています。また近所に異変があった際は、ホーム側から対応策について相談しています。その他、常日頃から挨拶を交わしたり、近隣の冠婚葬祭の際に駐車場を提供したりと開かれたホーム作りに努めています。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>須賀川広報や地元新聞等で調べて地域行事に参加したり、スーパーや商店に出かけることで地域の方と交流する機会を確保しホームの理解が得られるようになってきました。地区の交通安全協会に加入しています。施設の出入り口付近にカーブミラーを取り付け、交通安全にも協力しています。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>事業所として出来る限りの力を発揮したいと考え認知症グループホーム連絡協議会の研修・広報委員を引き受け、県内のグループホームの質向上だけでなく、地域の高齢者等の暮らしに役立つ術はないか話し合っています。また認知症ネットワークの活動に共感し、今後活動を支援したいと考えています。</p>		<p>認知症ネットワークに加入、その他認知症サポーターの養成に少しでも事業所として役立つ事はないか話し合い具体的活動に結び付けていきたいと思ひます。</p>
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価を実施する意義を理解した上で、サービスの点検のために全職員で自己評価票記入に取り組みました。評価結果に基づいて職員で話し合い改善計画シートを作成し質向上のために取り組んでいます。自己評価の内容を組織内人事考課制度に取り入れ日々のケアの中で職員が意識できるようにしています。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、利用者やサービスの実施、評価への取り組み状況等についての報告や情報交換までの内容で留まっています。委員の方の取り組みに関して激励されることで自信や意欲を持ってサービスの向上に向けて取り組んでいます。</p>		<p>運営推進会議の委員として家族会会長に入ってもらっているが、今後は多くの家族の参加を呼びかけたり、幅広い分野の方に委員として参加して頂けるように働き掛けていきたい。また会議の内容も広がりを持ったものとし、各委員の方から色々な意見を引き出せる効果的な手法を身につけていきたいと思ひます。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>サービスの質向上の為の市町村との連携にまで至っていません。</p>		<p>事業所の問題解決を図っていく為に、積極的に働きかけ関係作りに努めていきたいと思ひます。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度について外部研修や内部研修にて学ぶ機会があります。その他、文献を用意しいつでも見れる状態になっています。実際に、成年後見制度活用を支援したことがあります。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての外部研修参加はもとより、職員全員に対し虐待についてのレポートを提出させることで虐待について考える機会を作ると共に、管理者による勉強会を開催しています。また職員の勤務態度等を管理者・介護主任・介護リーダーにより観察し少しの変化でも見逃さず、確認をとる体制をとっています。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、電話相談・ホーム内見学・実態調査・重要事項説明書説明の際に、不安や疑問等を尋ね十分な話し合いをしたうえで納得して頂いてから契約を結んでいます。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度や表情からその思いを汲み取り、解決する努力をしている。管理者や職員が意見や不満・苦情を聞く機会を作っているも万全ではないと思われる。また介護相談員が開所当時は来居していたが現在人数上の問題で来居していない為第三者に話をする機会が確保されておりません。</p>	<p>入居者の方にも運営推進委員会に参加して頂き、途中で事業者職員が席をはずす等配慮し、第三者に意見を聞いて頂く機会を作る等工夫していきたいと思います。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者に暮らしぶりについては、2ヶ月に1回の家族通信の発行やホーム内写真掲示、面会の際や電話連絡により報告しています。預かり金に関しては、出納帳や領収書利用料請求書と共に一緒に送付したり、電話連絡により報告しています。健康状態に関しては、病院受診や状態変化の見られた際に報告して情報の共有に努めています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情等の受付に関して、契約の際にホーム内担当者その他、第三者委員過度でも受け付けている事の説明をしています。またホーム内に意見箱を設置しています。面会時や家族会・介護計画書説明の際に職員に何でも話して頂ける雰囲気作りや家族との懇談を大切に、意見・苦情・不満を引き出す努力をしています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>介護主任や介護リーダーが職員とのミーティングや個人面談で出された意見や提案を管理者に報告。管理者は、報告された内容の他に職員玄関に設置されている目安箱の中身や上申書の内容をまとめて運営者に報告・相談することで運営に反映する仕組みとなっています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者本位の生活を実現する為に利用者の状況や受診・行事等を踏まえて勤務時間帯の変更の話し合いや職員の増員を実施しています。現在利用者の重度化もあり午前中早番と日勤の2名では十分な対応ができないこともあり食事作りをメインとして支援してくれるパート職員を雇用しました。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	産休・育休で職員が長期で休む際、結婚退職等で離職する際はサービスの質の低下を招かないように何ヶ月も前より計画的に職員を加入し育成する事で利用者のダメージを少なくするようにしています。また離職後の利用者の精神状態や不安等の観察を行い、必要に応じて話を聞いたりして対応しています。	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	運営者は、管理者や職員に必要な外部研修を積極的に参加するように努めています。また外部評価研修の内容は、研修報告書にまとめて提出する形になっており全職員が周知できるようになっています。また内部研修の月1回の開催、専門的文献を数種類定期購読、OJTにより働きながら学ぶ機会を確保しています。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	管理者や職員は、認知症グループホーム連絡協議会を通じて、研修会に参加したり、情報交換や相互訪問を実施することでサービスの質の向上や悩みの共有及び解決に役立っています。また会議や研修会実施のために法人内会議室を提供しています。	認知症ネットワークに多くの職員が加入し活動する事で、よりいっそう同業者と交流を図ると共に地域の高齢者等の暮らしに役立てるようにしていきたいと思います。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	法人内に親睦会を設け、花見会や暑気払い・日帰り温泉旅行・忘年会等職員の希望に応じた催しを企画し、職員の交流やストレス軽減に努めています。また病気になった際に安心して受診できるように福利厚生が充実しております。	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	運営者は、会社内人事考課制度において職員の課業達成度・資格取得等目標達成度を把握し、資格手当て・昇進・昇格・賞与等に反映させることで、各職員が向上心を持って働けるように努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、仕事場と言う意識ではなく利用者と共に暮らすパートナーとしてどうあるべきか考えケアにあたっています。戦争というつらい経験をされた方の話や自伝を通じて学んだり、利用者の趣味を大切にさりげなく手助けしながら出来る力を十分に発揮して頂く事で、一緒に楽しんだり喜んだりする場面を自然に作っています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態や職員の思いをこまめに情報伝達することで、家族との信頼関係ができ話し合いの中で職員と家族が思いを共有し涙を流す場面がみられるようになりました。利用者を事業所・家族一体になって支える関係が出来つつあります。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族参加の行事(花見会・温泉旅行・流し素麺・夏祭り・芋煮会等)を企画し、一緒に行事を作り上げたり、面会の際は散歩や生け花・居室整理を本人と共にを行う機会を提供して、事業者・家族一体になって利用者を支える関係作りに努めています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所や馴染みの人を把握した上で、戦争時代に苦楽を共にしてきた友人と電話で会話する機会を作ったり、家族の協力のもと友人や親戚等に合うことが継続して行えるように支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	1人の方が洗濯物たたみや食器拭きをしているのを見て、「手伝うわよ。」と一緒に実施したり、体調不良の方の部屋の様子を見にいたり励ましの言葉をかけたりと支えあう関係性が自然の形で出ています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむを得ず他のグループホームや併設特養に入居した方に関しては、面会したりホームに招いたり関係継続出来るようし支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自分の意思を表出できる方には、暮らし方の希望や意向に関して尋ねて把握するようにしています。意思表出困難な方に関しては、日常生活の中で見せる表情・言動・行動・生活歴・家族からの情報により、本人本位に思いや意向を把握するように努めています。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の事前調査だけでなく入居後も継続的にセンター方式アセスメントを利用し、利用者・家族から生活歴や暮らし方、サービス利用までの経緯等の把握に努め、利用者本位の生活が送れるように努めています。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの1日の過ごし方、食事・排泄・健康状態等を総合的に観察した上で記入できる記録用紙になっており、休みだった職員も確認の上に押印する仕組みになっています。利用者の出来る力・分かる力に関してもアセスメントやカンファレンスにて明らかに介護計画書に反映しています。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画書作成の際、利用者本位の生活実現のために利用者・家族の意向を確認(または思いを汲み取る)した上で、介護職員だけでなく看護師・併設特養管理栄養士と話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画書を作成するように努めています。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画を期間に応じて見直しを行う事はもとより、利用者の状況・変化・希望に応じて、利用者・家族・職員と話し合い、現状に即した新たな介護計画書作成に努めています。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録に対しケアの実践・様子・気づき等を詳しく記入する用紙になっており、休みの職員は確認し押印する仕組みになっている。それをもとにカンファレンスを実施し、ケアの実践・介護計画書の作成に反映しています。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>	/	/	/
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>利用者が喜ぶ子供たちのよさこい踊りや歌のボランティアを受け入れたり、市からの「お好み園芸会」「牡丹園」の招待状を活用して生活の拡充に努めています。消防署には防災訓練、警察署には近隣のパトロールをお願いし、利用者が安全に生活できるように支援して頂いています。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>市町村独自に行っている介護用品給付金や重度医療費助成交付申請、身体障害者手帳申請等について家族に活用を勧めたり、申請にあたっての支援を行っています。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加により、周辺情報や支援に関する情報交換を行っているものの権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等についての協働までには至っていません。</p>		<p>地域包括支援センター職員と情報交換を行う事で関係強化に努め、今後利用者が成年後見人制度や地域権利擁護制度が必要になった際に、協働して支援していけるようにしています。また認知症ネットワークに加入した際に、地域包括支援センター職員にも協力頂き認知症の方が暮らしやすい街作りの実現に努めていきたいと思っております。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居契約時、馴染みのかかりつけ医を継続して頂いて構わない旨を説明していますが、利用者・家族の希望に応じて協力医療機関に変更されています。また状態に応じて心療内科・眼科・皮膚科等の専門医の受診援助も行っています。受診の際は、受診結果を家族に伝え情報の共有に努めています。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症に詳しい心療内科に受診し、気軽に相談できる関係性になっており適切な治療方針・指示・助言を頂いている。専門医から当ホームの職員の対応や職員の質について誉めて頂き自信を持って仕事に取り組んでいます。また専門医から相談にきた患者に対し、当ホームを紹介して頂き入居に至った事例もあります。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院の際は、利用者が安心して過ごせるよう利用者に合わせた病室の選択、認知症の症状に合わせた対応、早期退院について病院関係者と話し合っています。また職員も頻繁に面会に行くことで状態の確認と情報交換に努め、家族とも密に連絡をとっています。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>事例はないが重度化や終末期に向けた「看取りの指針」が出来ており家族に説明すると共に職員も周知しています。今後重度化することを予測し、会語法に関する看護士により勉強会を開いているが、完全ではないため繰り返しの勉強と場に応じたシュミレーションを行い常に頭においてケアにあたるようにしていきたいと思っています。</p>		<p>利用者・家族が安心して重度化の時期を迎えられるように状況変化に応じた繰り返しの話し合いや合意の必要性を明確化すると共に利用者・家族・看護士・事業所・医師等関係者全体での方針の統一を図り、それに向けての具体的な対応内容について勉強会を開催していきたいと思っています。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>事例はないが重度化や終末期の利用者・家族を支える為に、事業所として対応できること、不安なこと等を職員間で話し合い、介護法に関しては看護士による勉強会を開催しています。急変した場合は、すぐに対応して頂けるように協力医療機関との連携体制は出来ています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>利用者が他施設に移る際、これまでの生活の暮らしの継続性が損なわれないように、家族了承のもと個人情報や支援内容・注意点等について移行先に伝達すると共に職員が訪問する機会を作っています。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報保護法について全職員が周知し、誓約書を記入しています。ホーム内作品掲示・広報誌への写真掲載・面会や電話の制限等に関しても、利用者・家族の同意・不同意を得てから実行しております。また日頃の利用者への対応・声掛けに関しては、管理者や介護主任が日常的に確認すると共に接遇委員会中心に話し合いを持っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者が意思表示出来ない方でも表情やしぐさから読み取ったりを日常生活を共に過ごしている中で、利用者の思いや関心・希望等を把握するように努め、食事・入浴・外出等様々な事柄に関して選択する場面を意図的に作っています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のその日その時の思いを尊重し、利用者のペースに合わせ柔軟な対応に努めています。他入居者との交流を好まない方が、夜間皆が寝た後に職員を呼んだ際は、心ゆくまでおしゃべりを楽しむ時間を作っています。</p>	<p>自分の思いを伝えることができる利用者の意向を汲み取ることで、他入居者のペースを尊重出来ない時があります。利用者一人ひとりが平等に自分のペースを守って生活出来るように支援方法を検討していきたいと思えます。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>身体機能により自分でタンスや押入れから洋服が選べない方にも、複数の洋服を用意し自己決定出来るようにしています。またホームに来てくれる美容師とは馴染みの関係となり、会話が弾んだり希望の髪型にしてくれ利用者の方にも信頼を得ています。一人ひとりが拘りをもったお洒落を楽しんでいます。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の嗜好・希望・旬の食材や新鮮な物を取り入れた献立を工夫し、職員も同じテーブルと一緒に食事を楽しんでいます。気軽に出来る能力を活かす為に、ホールにて野菜の皮むき・盛り付け・食器拭き等を実施しています。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は、利用者の嗜好品を把握し一緒に買い物に出掛ける機会を作ったり、お酒については利用者の希望・状態に応じて提供しています。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>利用者の排泄リズム・排泄サインを把握し、他者に気づかれぬ様にさりげなくトイレ誘導を行っています。オムツ利用者に関しても、トイレ誘導を試してみたりとオムツをはずす方策はないか検討しています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者が入浴したい日、時間帯に合わせて入浴支援を行っています。ゆっくりと入浴を楽しめるよう利用者に合わせて音楽を流したり、バラ風呂にしたりと工夫しています。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日々の利用者の活動状況・体調等に合わせた休息する時間を設けるように努めています。横になるのを嫌がる方に対しては、職員ものんびり過ごし静かな空間を提供しています。夜間不眠が続く方については、原因を見極めて1日を通しての生活リズム作りに努めます。それでも改善されない場合は、医療関係者に相談して対応します。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>利用者に生活歴や利用者・家族からの情報を元に家事や裁縫・馴染みの慣わし等で活躍する場面を作ったり、外食やドライブ・地域行事に参加する機会を作ったりと利用者一人ひとりが充実した1日が送れるように支援しています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	家族よりお金を預かり事務所が管理している人でも、買い物の代金は自分で払って頂ける様にお金を手渡すなどの工夫をしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望や天候に応じて、季節感の感じれる場所へドライブに出掛けたり、近隣のスーパーに買い物または外食に出掛ける機会を作っています。歩行困難者には、車椅子にて散歩に出掛けたりと気分転換や五感刺激の機会を作るように努めています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	温泉に行きたいという利用者の思いを叶えるために、家族・職員で話し合い勤務調整をしたり、温泉関係者の協力を得て実現でき3回目を迎えることが出来ました。また利用者が会いたい人・行きたい場所について家族と情報を共有し、家族の協力のもと実現できたこともあります。		利用者が行きたいと思う場所に来れる限り出掛けられるように、勤務調整・車の手配等綿密な計画を立て実行に移していきたいと思います。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者に電話使用を促すと共に、ホーム側からの用事で家族に連絡する際は、利用者が電話で話せるように配慮しています。字がなかなか書けなくなった利用者も自分の名前を書くことは覚えていることが多いので、家族通信送付等の際に記入しています。また希望に応じて手紙の代筆や代読を行っています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	面会時間を設定しているが家族の都合等で時間に来れない際は、柔軟な対応をしています。久しぶりに会い対応に迷っている際は、状況を説明し間を取り持つ役目をしています。また湯茶等物品を用意し、寛げる空間作りに努めています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は、身体拘束の研修にて学んできた「禁止の対象と名ある具体的行為について」等職員に周知を図り、共通認識を持ってケアに取り組んでいます。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解してお り、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の精神状態・行動を把握するために、必ず一人 の職員は見守り出来るホールにて過ごすように努め、 外出の気配を感じたら職員間で連携を図り、利用者の 思いを尊重できるようにしています。またどんな場面 でも速やかな対応・連絡が出来るよう職員は携帯電話 を常備し、鍵をかけずに済むようにしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しなが ら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握 し、安全に配慮している	職員は、利用者を同じ空間で記録記入を行い、さりげなく状態を観察するようにしています。夜間 に関しては、物音が聞こえ易く起きてきた時にす ぐ対応出来る場所にて過ごし、1時間おきの巡視 をして安全に配慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を 防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じて、注意が必要な物品は何か 職員で話し合い管理方法を検討しています。出来 るがぎり見守りすることで生活に必要な物品や道 具が使用でき、生活意欲が持てる様に支援してい ます。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態 に応じた事故防止に取り組んでいる	エスケープが起きた際速やかに利用者に情報が共有できるよう 洋服チェック表を記入し、併設特養職員にも利用者の特徴が分 かるよう写真等を配布しています。その他利用者に起こりえる 転倒・窒息等のリスクを想定し事故防止の方法を学び共有して います。万が一事故が起きた場合、事故・ヒヤリハットの報告 書を速やかに作成し、事故の原因・対策について話し合い、家 族への説明を報告もしています。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている	看護師による応急手当の勉強会を開催し、体験・ 習得するように努めています。急変時の対応につ いて、マニュアルを整備し周知徹底を図っていま すが経験が少なく不安に思う職員も多いのが現状 です。		急変時や事故の際、冷静に適切な応急処置が出来 るように訓練を繰り返し、実践の場面に生かせる 技術を身に付けていくようにしていきたいと思 います。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ よう働きかけている	火災に関しては防災委員会を中心に月1回通報・ 消化・避難等について防災訓練を行っています。 その他日常的に非常放送機器や消火器の使い方、 避難経路についてシュミレーションを行っていま す。地域の方に災害の際の協力を行っています。		水害や自信の際の実践的な訓練や地域住民参加に よる訓練は行われていないため、今後具体的な支 援体制の整備や訓練に努めていきたいと思 います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の身体・精神機能の現状・今後起こり得るリスクについて、家族に説明した上で今後の対応について家族と共に考え、利用者を支える手段を選択するように務めています。以前脱臼を繰り返す方の家族が、痛い思いをするなら寝ていても良いので強い安定剤を内服して欲しいとの希望がありましたが、利用者へ与える弊害を説明し納得して頂き、内服せずに済む対応法を選択することが出来ました。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者一人ひとりの状態を日々のケアにおいて観察し、顔色・食欲・様子等に少しでも変化が見られた際は、速やかに管理者・看護師に報告・相談し対応に結び付けています。現在食事量低下されている方について、食事・排泄量の確認、栄養補助食品の取り入れ・医療関係者の相談をこまめに行い、今後の対応につなげています。	
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者一人ひとりの薬について、医師や看護師の説明・処方箋・薬辞典等を活用し理解しています。受診の際は、食欲・睡眠・バイタルサイン・精神面等総合的な報告・相談を行い服薬の支援に活かしています。服薬の際は、利用者へ手渡す前に間違いがないか職員2名にて確認を行い、利用者の服薬が出来るまで見守りを行っています。	
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響については、外部研修や内部研修に参加し理解しています。食事に乳製品や食物繊維を取り入れたり、腹部マッサージを行ったりと出来る限りの対応をしています。しかし、歩行困難にて運動量が確保されない等の理由から頑固な便秘の方がおり下剤に頼っているのが現状です。	安定剤内服の副作用として便秘になりやすいといわれています。利用者の精神安定を図るために不穏の要因を取り除き出来る限り安定剤の内服を少なく出来るよう努めていきたいと思っております。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性については、勉強会を実施し職員は周知しています。利用者の歯磨きの習慣を尊重した上で、職員と一緒に歯磨きする場を設定し、歯磨きを誘発する働きかけを行ったり、磨き残しは仕上げたり、口腔内清拭を行ったりと個々に合わせた対応をしています。	
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好・食習慣を把握した上で献立を作成したり、利用者の状況に応じて提供内容・形状・介助法・食器等を変えています。血液検査の結果や体重・BMIの数値をもとに併設特養管理栄養士に指導してもらっています。とくに水分、食事量が確保されていない方はデータをとりカンファレンスを実施しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルについて全職員が周知し対応法についても看護師の指導を受けています。職員・利用者の手洗い・つがいを励行し、面会者にも促しています。また利用者・職員とも毎年インフルエンザ予防接種を実施しています。地域の感染症の発生状況の情報を収集し、速やかな対策を講じています。開設以来、感染症にかかった方はおりません。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	環境整備美化委員会を中心に清掃担当を設け、念入りな清掃を行っています。その他日常的に使用前後の清掃・消毒・手洗い等衛生管理に努めると共に食材に関しては、新鮮な物を必要最低限購入し速やかに使用したり、冷凍庫・冷蔵庫の在庫確認をこまめに実施しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物自体は、ハードなイメージがあり親しみ易いとはいえませんが、玄関周りに四季折々の花々を沢山置いたり、親しみ易い表札をかけたり、休憩する椅子を置いたり工夫しています。玄関前は道路道路になっている為、職員や地域住民には徐行運転お願い安全に配慮しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境を大切にしたいと、利用者に季節の花の生け花として飾って頂いたり、季節に応じた装飾に努めています。家具の配置に関しても、利用者の意見や状況に応じた配置に心掛けています。ホットプレートを利用し、利用者の目の前で料理したり、利用者誰からも好まれる音楽を反応をみながら流したりと五感を刺激する工夫をしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の随所にソファや椅子を設置し、近くには装飾を施したり写真を掲示し寛げる空間作りに努めています。気の合った利用者同士で写真を眺めて談話したり、一人で物思いにふける光景がみられています。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのものの持参依頼は、入居前・入居 後とも継続的に行っています。家族の多くは、自宅に 帰った際、きちんと自分の居場所があるという事を残 しておきたいとの思いがあります。その思いを尊重し た上で、アルバムや華道・茶道道具、布団等小さいな がら馴染みのある物を持参して頂いたり、居室に家族 の写真を飾ったりと安心できる空間作りに努めていま す		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	空調調整も活動性等利用者の状態に応じて行っていま す。余り、冷房・暖房を使用しすぎると季節感を感じ ることなく生活している状態になる為、出来る限り自然 環境に触れて頂き、利用者自ら衣類調整したり「暑 い」「寒い」との言動を引き出すように努めていま す。またこまめな換気や換気扇・消毒剤の利用にて悪 臭が出ないようにしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	共有空間や浴室・トイレの至るところに手すりを設 置、居室には手すりがない為利用者の状態に合わせた 家具等の配置を行い安全に生活出来るように配慮して います。また浴槽に入りやすいように踏み台を設置し たり、回転盤を活用。台所での家事が困難な際は、利 用者の作業しやすい環境であるホールに場所を移動し て提供したりと利用者の身体機能に合わせた対応をし ています		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者の不安や混乱、失敗を招く要因について職 員で話し合いを行い、利用者の状態に合わせた環 境整備を心掛けています。トイレや浴室について も分かり易い表示となるよう字の大きさや漢字や カナ表示にするか、表示する目印の材質や色等につ いても検討して対応しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関や中庭には、四季折々の花や野菜を植えてお り園芸や水くれをしたり、コミュニケーションの 手段として利用しています。常日頃日光浴や散歩 を楽しんだり、中庭では花見会や芋煮会行い、家 族と共に楽しむ場所として活用しています。		居間にあがる際段差があったりと障害がある為、 職員の介助がないと容易に出れない状態です。 ウッドデッキやスロープを設け、利用者が活用し たい時にスムーズに出れるような改修出来るか どうか検討していきたいと思います。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の利用者2/3くらい利用者1/3くらいほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある数日に1回程度あるたまにあるほとんどない	その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全文の利用者が利用者2/3くらいが利用者1/3くらいがほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が利用者2/3くらいが利用者1/3くらいがほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が利用者2/3くらいが利用者1/3くらいがほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が利用者2/3くらいが利用者1/3くらいがほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が利用者2/3くらいが利用者1/3くらいがほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と家族2/3くらいと家族1/3くらいとほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように数日に1回程度たまにほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しづつ増えている あまり増えていない 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

特別養護老人ホームエルピスが隣にあることで、災害や急変等の際に速やかな連携体制が出来ているだけでなく、合同のイベントやレクリエーションに参加する等利用者の生活の楽しみが拡充されています。そのほか単独のグループホームでは、ケアに対する悩みを抱え込んでしまうことも特別養護老人ホームの介護員や看護師・栄養士・清掃員等と話し合う機会がある事で、幅広い視点から物事を考えることが出来ていると思います。またグループホーム職員の間人間関係は、とても良好で笑顔と笑い声が絶えない職場環境です。職員が笑う、それにつられて先程まで不機嫌だった利用者が笑ってしまうような和やかな雰囲気があります。職員一人ひとりが資格取得等の目標設定を行い実現に向けて努力しており、それが利用者のケアの質向上に繋がっております。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

項目番号23 初期に築く本人との信頼関係

項目番号24 初期に築く家族との信頼関係

項目番号25 初期対応の見極めと支援

項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援

項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援

項目番号60 お金の所持や使うことの支援

項目番号61 日常的な外出支援

項目番号62 普段行けない場所への外出支援

項目番号63 電話や手紙の支援

項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 社会福祉法人 篤心会 エルピスホーム

(ユニット名) B

記入者(管理者)
氏名 吉川 君江

評価完了日 平成19年 9月 28日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設時より家庭・地域社会との連携を大切に暖かい家庭的環境を作ることを理念に掲げています。「地域密着型サービス」の意義を職員で確認し、現在のホームの状態から地域との関係性、連携をどのように図っていくべきか話し合い、少しずつ自然な形で地域にとけこめるように努めています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日の朝礼の際、職員全員で理念の実現のために唱和しています。理念の中にある「入居者の安全を守り人権を尊重する」ことに関しては、全職員がレポート提出という形で理念について考える機会を持ったり、管理者による勉強会を開催し理念の共有、取り組みに活かしています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の方には入居契約時・面会時・家族会開催時等の際に、地域の方には運営推進会議・見学の際に理念について説明しています。その他、理念を見えやすい玄関に掲示したり、パンフレットに載せたりと多くの方に理念が浸透するように努めています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>夏祭り等の行事を開催する際は、近所の方に招待状を出し、参加の呼びかけをしています。また近所に異変があった際は、ホーム側から対応策について相談しています。その他、常日頃から挨拶を交わしたり、近隣の冠婚葬祭の際に駐車場を提供したりと開かれたホーム作りに努めています。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>須賀川広報や地元新聞等で調べて地域行事に参加したり、スーパーや商店に出掛けることで地域の方と交流する機会を確保しホームの理解が得られるようになってきました。地区の交通安全協会に加入しています。施設の出入り口付近にカーブミラーを取り付け、交通安全にも協力しています。</p>	<p>町内会に加入しているものの回覧板等まわってこず地域活動に参加するまでには至っていません。ホーム側から町内会に積極的に働きかけ、奉仕作業等の地域活動に参加していきたいと思えます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>事業所として出来る限りの力を発揮したいと考え認知症グループホーム連絡協議会の研修・広報委員を引き受け、県内のグループホームの質向上だけでなく、地域の高齢者等の暮らしに役立つ術はないか話し合っています。また認知症ネットワークの活動に共感し、今後活動を支援したいと考えています。</p>	<p>認知症ネットワークに加入、その他認知症サポーターの養成に少しでも事業所として役立つことはないか話し合い具体的に結び付けていきたいと思っています。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価を実施する意義を理解した上で、サービスの点検の為に全職員で自己評価票記入に取り組みました。評価結果に基づいて職員で話し合い改善計画シートを作成し質向上のために取り組んでいます。自己評価の内容を組織内人事考課制度に取り入れ日々のケアの中で職員が意識できるようにしています。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等についての報告や情報交換までの内容で留まっている。委員の方に関し取り組みに関して激励されることで自信や意欲を持ってサービスの向上に向けて取り組んでいます。</p>	<p>運営推進会議の委員として家族会会長に任じて頂いているが、今後は多くの家族の参加を呼びかけたり、幅広い分野の方に委員として参加していただけるように働き掛けていきたい。また会議の内容も広がりを持ったものとし、各委員の方から色々な意見を引き出せる効果的な手法を身につけていきたいと思っています。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>サービスの質向上の為に市町村との連携まで至っていません。</p>	<p>事業所の問題解決を図っていく為に、積極的に働きかけ関係作りに努めていきたいと思っています。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見人制度について外部研修や内部研修にて学ぶ機会があります。その他、文献を用意しいつでも見れる状態になっています。実際に、成年後見人制度活用を支援したことがあります。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての外部研修参加はもとより、職員全員に対し虐待についてのレポートを提出させることで虐待について考える機会を作ると共に、管理者による勉強会を開催しています。また職員の勤務態度等を管理者・介護主任・介護リーダーにより観察し少しの変化でも見逃さず、確認をとる体制をとっています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に監視は、電話相談・ホーム内見学・実態調査・重要事項説明書説明の際に、不安や疑問等を尋ね十分な話し合いをした上で納得して頂いてから契約を結んでいます。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度や表情からその思いを汲み取り、解決する努力をしている。管理者や職員が意見や不満・苦情を聞く機会を作っているも万全でないと思われる。また介護相談員が開所当時は来居していたが現在人数上の問題で来居していないため第三者に話をする機会が確保されておりません。</p>	<p>入居者の方にも運営推進会議に参加して頂き、途中で事業者職員が席をはずす等配慮し、第三者に意見を聞いて頂く機会を作る等工夫していききたいと思います。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりについては、2ヶ月に1回の家族通信の発行やホーム内写真掲示、面会の際や電話連絡により報告しています。預かり金に関しては、出納帳や領収書を利用資料請求書と共に一緒に送付したり、電話連絡により報告しています。健康状態に関しては、病院受診や状態変化の見られた際に報告して情報の共有に努めています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情等の受付に関して、契約の際にホーム内担当者その他、第三者委員などでも受け付けていることの説明をしています。またホーム内に意見箱を設置しています。面会時や家族会・介護計画説明の際に職員に何でも話して頂ける雰囲気作りや家族との懇談を大切に、意見・苦情・不満を引き出す努力をしています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>介護主任や介護リーダーが職員とのミーティングや個人面談で出された意見や提案を管理者に報告。管理者は、報告された内容の他に職員玄関に設置されている目安箱の中身や上申書の内容をまとめて運営者に報告・相談することで運営に反映する仕組みとなっています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者本位の生活を実現する為に利用者の状況や受診・行事等を踏まえて勤務時間帯の変更の話し合いや職員の増員を実施している。現在利用者の重度化もあり午前中早番と日勤の2名では十分な対応ができないこともあり食事作りをメインとして支援してくれるパート職員を雇用しました。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	産休・育休で職員が長期で休む際、結婚退職等で離職する際はサービスの質の低下を招かないように何ヶ月も前より計画的に職員を加入し育成することで利用者のダメージを少なくするようにしています。また離職後の利用者の精神状態や不安等の観察を行い、必要に応じて話を聞いたりして対応しています。	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	運営者は管理者や職員に必要な外部研修を積極的に参加するように努めています。また外部研修の内容は、研修報告書にまとめて提出する形になっており全職員が周知出来るようになっていきます。また内部研修の月1回の開催、専門的文献を数種類定期購読、OJTにより働きながら学ぶ機会を確保しています。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	管理者や職員は、認知症グループホーム連絡協議会を通じて、研修会に参加したり、情報交換や相互訪問を実施することでサービスの質の向上や悩みの共有及び解決に役立っています。また会議や研修会実施のために法人内会議室を提供しています。	認知症ネットワークに多くの職員が加入し活動する事で、よりいっそう同業者と交流を図ると共に地域の高齢者の暮らしに役立てるようになっていきたいと思います。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	法人内に親睦会を設け、花見会や暑気払い・日帰り温泉旅行・忘年会等職員の希望に応じた催しを企画し、職員の交流やストレス軽減に努めています。また病気になった際に安心して受診できるように福利厚生が充実しております。	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	運営者は、会社内人事考課制度において職員の課業達成度・資格所得等目標達成度を把握し、資格手当・昇進・昇格・賞与等に反映させることで、各職員が向上心を持って働けるように努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は仕事場という意識ではなく、生活の場として入居者と共に暮らす場所とし、人生の先輩として入居者がその方らしく生きていくには、どのような支援がよいのか、入居者と正面から向き合うことで表情の変化を見ながら、毎日の会話の中で以前の得意とした仕事を教えていただき、その得意とする事を生かせる場面をつくり、生き生きとした表情が見出せるような関係作りを行っています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態を報告するのは勿論の事、利用者の楽しい様子に職員が喜び、その思いを素直に伝える事で家族との間で共有をし、信頼関係を築こうとしています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族参加の行事(花見会・温泉旅行・流し素麺・夏祭り・芋煮会等)企画し、一緒に行事を作り上げたり、面会の際は散歩を楽しんだり、居室でゆっくり談話ができ、本人と共に過ごす機会を提供して、事業者・家族一体となって利用者を支える関係作りに努めています。		利用者は家族(妻)を求め、自宅復帰を希望しているが家族、妻は以前自宅での利用者の行為が忘れられず、その利用者を現在も受け入れる事ができない家族がいる。認知症への理解はもとより、本人の思いを随時伝え、本人とのより良い関係が再構築できるよう一緒に働きかけていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所や馴染みの人を把握した上で、知人・友人等が面会に来た場合は居室内で時間を気にせず一緒に過ごせる機会を提供し、電話などでいつでも本人が話したい時に連絡ができるように家族の協力を得ています。また、知人・友人等に会うことが継続して行えるように支援しています。		住み慣れた場所には地域性もあり出掛けないで欲しいと言われる家族がいる。しかし、本人の話題にすると言葉も多く出て表情も明るくなる。再度、家族の協力を得て、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	透析で食事が遅くなった方に、「今、ご飯かい？」と一人でホールに座っているのを見つけ声をかけ一緒に話をしたり、熱発のため寝ている方の姿をみては体調を気遣う声かけをするなど利用者同士の支えあう関係が自然とできています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族の都合で併設特養に入居された方に関しては、面会したりホームに招いたり関係が継続できるように支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自分で意思表示ができる方には、暮らしの希望や意向に関して尋ねて把握するようにしています。意思表出が困難な方に関しては、日常生活の中で見せる表情、こちらからの問いかけによるうなずき、行動、生活歴、家族からの情報により、本人の思いや意向を把握するように努めています。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居者の事前調査だけでなく入居者も継続的に生活歴などセンター方式を利用し、サービス利用までの経緯等の把握に努め、利用者本位の生活が送れるように努めています。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>記録用紙が利用者一人ひとりの一日の過ごし方、食事・排泄・睡眠状況・健康状態等を総合的に観察できるようになっています。休みの職員は確認後捺印し、利用者の出来る力・わかる力に関してもアセスメントやカンファレンスで明らかにし介護計画に反映させています。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画書作成時、利用者本位の生活実現のため利用者、家族に意向を確認し、または思いを汲み取り介護員だけでなく看護師、必要に応じては併設特養管理栄養士と話し、それぞれの意見を反映させた介護計画書を作成するように努めています。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて見直しを行う事はもとより、利用者の状況、変化、希望に応じて、利用者・家族・職員と話し合い、現状に即した新たな介護計画書作成に努めています。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録に対しケアの実践、様子、気づき等を詳しく記入する用紙になっています。休みの職員は確認、押印するようにしています。それをもとにカンファレンスを実施し、ケアの実践・介護計画書の作成に反映しています。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>	/	/	/
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>利用者が喜ぶ子供達のよさこい踊りや歌のボランティアを受け入れたり、市からの「お好み園芸会」「牡丹園」の招待券を活用して生活の拡充に努めています。消防署には防災訓練、警察署には近隣のパトロールをお願いし、利用者が安全に生活出来るように支援して頂いています。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>市町村独自に行っている介護用品給付券や重度医療費助成交付申請、身体障害者手帳申請等について家族に活用を勧めたり、申請にあたっての支援を行っています。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加により、周辺情報や支援に関する情報交換を行っているものの権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等についての協働までには至っていません。</p>		<p>地域包括支援センター職員と情報交換を行う事で関係強化に努め、今後利用者が成年後見人制度や地域権利擁護制度が必要になった際に、協働して支援していけるようにしています。また認知症ネットワークに加入した際に、地域包括支援センター職員にも協力頂き認知症の方が暮らしやすい街作りの実現に努めていきたいと思えます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居契約時、馴染みのかかりつけ医を継続して頂いて構わない旨を説明していますが、利用者・家族の希望にて協力医療機関に変更されています。また状態に応じて心療内科・眼科・皮膚科等の専門医の受診援助も行っています。受診の際は、受診結果を家族に伝え情報の共有に努めています。</p>	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症に詳しい心療内科に受診し、気軽に相談できる関係性になっており適切な治療方針・指示・助言を頂いている。専門医から当ホームの職員の対応や職員の実について誉めて頂き自信を持って仕事に取り組んでいます。また専門医から相談にきた患者に対し、当ホームを紹介して頂き入居に至った事例もあります。</p>	
45			
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院の際は、利用者が安心して過ごせるよう利用者に合わせた病室の選択、認知症の症状に合わせた対応、早期退院について病院関係者と話し合っています。また職員も頻繁に面会に行くことで状態の確認と情報交換に努め、家族とも密に連絡をとっています。</p>	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>事例はないが重度化や終末期に向けた「看取りの指針」が出来ており家族に説明すると共に職員も周知しています。今後重度化することを予測し、介護法に関しても看護師により勉強会を開いているが、完全ではないため繰り返しの勉強と場に応じたシュミレーションを行い常に頭においてケアにあたるようにしていきたいと思います。</p>	<p>利用者・家族が安心して重度化の時期を迎えられる養に状況変化に応じた繰り返しの話し合いや合意の必要性を明確化すると共に利用者・家族・看護師・事業所・医師等関係者全体での方針の統一化を図り、それに向けての具体的な対応内容について勉強会を開催していきたいと思います。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>事例はないが重度化や終末期の利用者・家族を支える為に、事業所として対応出来ること、不安なこと等を職員間で話し合い、介護法に関しては看護師による勉強会を開催しています。急変した場合は、すぐに対応して頂けるように協力医療機関との連携体制は出来ています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>利用者が他施設に移る際、これまでの生活の暮らしの継続が損なわれないように、家族了承のもと個人情報や支援内容、注意点について移り住む先に伝達すると共に職員が訪問する機会を作っています。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報保護法について全職員が周知し、誓約書を記入しています。ホーム内作品掲示・広報誌への写真掲載・面会や電話の制限等に関しても、利用者・家族の同意・不同意を得てから実行しております。また日頃の利用者への対応・声掛けに関しては、管理者や介護主任が日常的に確認すると共に接遇委員会中心に話し合いを持っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者が意思表示できない方でも表情や動きなどで職員が感じ取り日常生活を共に過ごすことで、利用者の思いや希望・関心等を把握するように努め、食事・入浴・外出など様々な場面で選択が出来るように支援しています。</p>	<p>食事のメニューについて、新聞のチラシなどを見て利用者が選択できるような場面をつくっているが、希望はできるが買い物には配慮をし出かけようとする利用者があるので、いつでも出かけることができるような働きかけをしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の生活スペース、思いに合わせた対応を行っています。夜間若い頃の仕事を思い出し活動している方には温かい飲み物を一緒に飲んで、休息をとりながら穏やかに話をし、利用者の希望を聞き入れるようにしています。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>自分で洋服選びが困難な方には家族の協力を得て、利用者の好む洋服選びを行っています。ホームに来てくれる美容師とは顔馴染みとなり、利用者の希望を聞き入れた髪型にしてくれており、会話も弾み楽しい時間とおしゃれをすることができています。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の嗜好・希望、旬の食材を取り入れた献立を工夫しています。ホーム中庭で一緒に収穫した野菜を調理し、食卓に出す事で利用者との会話も弾み、利用者との一緒にテーブルで食事を楽しんでいます。食事の後片付けとして台所まで下膳することを行ってくれる方、食器拭きをしてくれる方、それぞれできる事を行っています。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は、利用者の嗜好を把握し散歩の際など買い物のお酒をつくっています。お酒については、家族の意向もあり行事の際(花見会、芋煮会など)に提供しています。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>利用者の排泄リズム、排泄サインを把握し、さりげなくトイレ誘導、排泄介助を行っています。オムツ利用者の方には、便意があった時点でポータブルトイレを使い、自力での排泄ができるように支援しています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日、時間帯は利用者の希望に合わせた入浴を行っています。歌が好きの方には音楽を流したり、浴室には季節に応じた装飾を行い、季節感を楽しめるようにしています。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>夜間の睡眠状況、日中の活動量、体調等に合わせ休息する時間を設けています。居室での臥床を嫌がる方には居間畳にて横になってもらったり、職員ものんびり過ごす事ができるようにリラックスができる音楽を流し穏やかな空間を提供しています。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>利用者の生活歴や利用者・家族からの情報をもとに、その方が得意とする家事や家庭菜園等活躍の場面を作っています。外食やドライブ、地域の祭典など参加する機会を作り、利用者一人ひとりが充実した生活が送れるように支援しています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	家族や知人の面会時に本人が頂いたこづかいは、本人が手持ちをしており病院受診時売店などで本人が希望した買い物を行い、財布より本人が支払いをしています。管理が難しい方は預かり金としてお預かりしている金額の中から準備し、支払いの際お金を手渡し自分で渡すようにしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望や天候に応じて、近隣の花の名所などへドライブに出掛けています。ホーム前の野菜の生育状況を毎日のように見に行ったり、車椅子使用の方には、散歩に出掛け気分転換を図り五感刺激の機会を作るように努めています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	温泉に行きたいという利用者の思いを叶える為に、家族・職員で話をし勤務調整をしたり、温泉関係者の協力を得て実現ができています。		墓参りなど利用者が行きたいと思う場所には勤務調整・車の手配等前以って計画を蜜に行い、実現の方向にしていきたいと思います。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	御誕生日や母の日などにプレゼントが届いた時に勿論電話で話したり、礼状を代筆しても名前は本人に書いてもらったりしています。ホーム側から家族に連絡する際、利用者でも電話で話せるように配慮しています。家族からの葉書を代読したり、文字を書く事が難しい方には代筆で手紙を書き、家族とのやり取りが継続できるように支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	面会時間は設定しているが家族の都合等で時間内に来れない場合は、柔軟な対応をしています。久しぶりの面会の方には職員が状況を説明し、面会がスムーズに行えるように間を取り持つ役目をしています。ゆっくり寛げるように湯呑み茶碗等を準備しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は、身体拘束の研修にて学んできた「禁止の対象となる具体的な行為について」等職員に周知を図り、共通認識を持ってケアに取り組んでいます。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の精神状況・行動を把握する為に、必ず職員一人はホールにて見守りができるように努めています。東側出入り口にはすだれを掛け、開放感を出し閉鎖性がないようにしています。利用者が落ち着きなく、廊下など往復し外出の気配を感じた際は職員間で連携を図り、利用者の思いが尊重できるように携帯電話を準備し速やかな対応ができるようにし、鍵をかけずに済むようにしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者と同じ空間で記録記入を行い、さりげなく状態を観察するようにしています。夜間は、物音などした場合すぐに対応出来る場所にて過ごしています。巡視は1時間おきに行うのはもちろん転倒の危険がある方においては随時状態を観察し安全に配慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じて、注意が必要な物品については職員で話し合い管理方法を検討しています。長年、生活習慣で使用して来た物はできる限り見守りすることで使用を継続し、生活意欲を持てるように支援しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	エスケープが起きた際速やかに利用者の情報が共有できるよう洋服チェック表を記入し、併設特養職員にも利用者の特徴が分かるよう写真等を配布しています。その他利用者に起こりえる転倒・窒息等のリスクを想定し事故防止の方法を学び共有しています。万が一事故が起きた場合、事故・ヒヤリハットの報告書を速やかに作成し、事故の要因・対策について話し合い、家族への説明と報告もしています。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師による応急手当の勉強会を開催し、体験・習得するように努めています。急変時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っていますが経験が少なく不安に思う職員も多いのが現状です。		急変時や事故の際、冷静に適切な応急処置ができるように訓練を繰り返し、実践の場面に活かせる技術を身に付けていくようにしていきたいと思えます。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に関しては防災委員会を中心に月1回通報・消火・避難等について防災訓練を行っています。その他日常的に非常放送機器や消火器の使い方、避難経路についてシュミレーションを行っています。地域の方に災害の際の協力を行なっています。		水害や地震の際の実践的な訓練や地域住民活動による訓練は行われていない為、今後具体的な支援体制の整備や訓練に努めていきたいと思えます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の身体・精神機能の現状・今後起こりえるリスクについて、家族に説明した上で今後の対応について家族と共に考え、利用者を支える手段を選択するように努めています。以前脱臼を繰り返す方の家族が、痛い思いをするなら寝ていてもよいので強い安定剤を内服して欲しいとの希望がありましたが、利用者へ与える弊害を説明し納得して頂き、内服せずに済む対応策を選択することが出来ました。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者一人ひとりの状態を日々のケアにおいて観察し、顔色・食欲・様子等に少しでも変化が見られた際は、速やかに管理者・看護師に報告・相談し対応に結び付けています。現在食事量が低下されている方について、食事・排泄量の確認、栄養補助食品の取り入れ・医療関係者の相談をこまめに行い、今後の対応につなげています。	
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者一人ひとりの薬について、医師や看護師の説明・処方箋・薬辞典等を活用し理解しています。受診の際は、食欲・睡眠・バイタルサイン・精神面等総合的な報告・相談を行い服薬の支援に活かしています。服薬の際は、利用者へ手渡す前に間違いがないか職員2名にて確認を行い、利用者の服薬が出来るまで見守りを行っています。	
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響については、外部研修や内部研修に参加し理解しています。食事に乳製品や食物繊維を取り入れています。歩行困難な方には活動量確保の為、ベッドより椅子への移乗訓練をしたり、居間にて下肢を使い移動運動の時間を決め行っています。	安定剤内服の副作用として便秘になりやすくなっているようです。利用者の精神安定を図る為、不安となる要因の除去ができ、できる限り安定剤の内服を少なくできるように努めていきたいと思えます。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性については、勉強会を実施し職員は周知しています。利用者の歯磨きの習慣を尊重した上で、磨き残しは職員が仕上げしたり、食後はうがいをする方、うがいが困難な方には水、もしくはぬるま湯での摂取により、口腔内の清潔保持ができるよう個々に合わせた対応をしています。	
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好・食習慣を把握した上で献立を作成し、利用者の状況に応じて主食をお粥・麺類・副食を刻み、介護皿を使用するなど提供内容を変えています。血液検査の結果や体重、BMIの数値をもとに併設特養管理栄養士に指導してもらい、特に食事量が低下したり、水分量が必要な方については職員間で話し合いを持っています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルについて全職員が周知し対応法についても看護師の指導を受けています。職員・利用者の手洗い・つがいを励行し、面会者にも促しています。また利用者・職員とも毎年インフルエンザ予防接種を実施しています。地域の感染症の発生状況の情報を収集し、速やかな対策を講じています。開設以来、感染症にかかった方はおりません。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	環境整備委員会を中心に食事の後片付けの際は必ず清掃を行っています。日常的に使用するまな板、包丁類は定期的に消毒を行い、職員の手洗いなど衛生管理に努めています。冷蔵庫・冷凍庫内を定期的に消毒し、在庫確認をこまめに実施しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物自体は、ハードなイメージがあり親しみ易いとはいえないが、玄関周りに四季折々の花を置き、親しみ易い表札をかけたりにしています。玄関前は道路になっている為、職員や地域住民には徐行運転をお願いし安全に配慮しています。玄関には入ってすぐに季節が感じられるようなディスプレイをし、誰でも入り易いよう行っています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境を大切にした上で、ホール内には季節の花を飾り、季節に応じた装飾に努めています。居間中庭縁台にはホーム内より花が見えるように配置しています。家具の配置は利用者の意見に応じるように努めています。音楽についても、利用者のなじみがあり、思わず誰でもが口ずさむような音楽を流し五感を刺激する工夫をしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には随所にソファを設置し、玄関には雑誌や書籍を置きいつでも手にとって見れるようにしており、気の合った入居者同士で談話したり、一人で本を読んだり寛げる空間となっています。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのものの持参依頼は、入所前・入居ごとも継続して行っています。趣味であった大正琴やお気に入りの音楽のテープなど持参されています。身近なものを持参して頂き、居室内に家族の写真を飾ったりと安心できる空間作りに努めています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気については、朝、日中と定期的に居間、台所と風の通りをよくしています。冷房・暖房を使用し過ぎると季節を感じることなく生活している状態になる為、できる限り自然の風に触れて頂くため、利用者の衣類調整を行っています。また換気が難しい場合もあるので、換気扇・消毒剤の利用にて悪臭が出ないようにしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間や浴室・トイレの至るところに手すりを設置、居室には手すりがない為利用者の状態に合わせた家具の配置を行い、安全に生活できるように配慮しています。浴槽には入り易いように踏み台を設置しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の不安や混乱、失敗を招く要因について職員で話し合いを行い、利用者の状態に合わせた環境整備を心掛けています。トイレについてはドアの開閉が難しい方の為に取っ手をわかりやすくカラーテープを巻いたり、浴室入り口には馴染み柄の暖簾をかけたり、台所も流しと表記し分かりやすくしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関や中庭には、四季折々の花や野菜を植えており水くれや花がら摘み、野菜の収穫などコミュニケーションの手段として利用しています。日頃はン川で日光浴をしたり、散歩を楽しんでいるが、念に数回中庭で花見会や芋煮会を行い、家族と共に楽しむ場所として活用しています。		居間に上がる際段差があったり、中庭へ出る際縁側が高く利用者一人では出入りが難しい状態です。ウッドデッキやスロープに出れるような改修が出来るか検討していきたいと思います。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまは ほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている ① 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が ③ 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が ④ 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

特別養護老人ホームエルピスが隣にあることで、災害や急変等の際に速やか連携体制が出来ているだけでなく、合同のイベントやレクリエーションに参加する等利用者の生活の楽しみが拡充されています。そのほか単独のグループホームでは、ケアに対する悩みを抱え込んでしまうことも特別養護老人ホームの介護員や看護師・栄養士・清掃員等と話し合う機会がある事で、幅広い視点から物事を考えることが出来ていると思います。またグループホーム職員の間人間関係は、とても良好で笑顔と笑い声が絶えない職場環境です。職員が笑う、それにつられて先程まで不